

言語科学研究科

言語学専攻

1. 言語科学研究科の教育研究上の目的及び人材養成の目的

理論言語学、個別言語学、及び応用言語学に関して国際的視野で独創的研究を行える研究者を養成する。また、言語聴覚障害学の基礎および臨床における研究者を養成し、さらに、英語による授業を通じて、英語教育に携わる教師を養成する。理論と実践が伴った国内外で活躍できる日本語教師も養成する。

2. 各専攻のディプロマ・ポリシー

言語学専攻

【博士前期課程】

本課程では、言語という人間の最も根本を成す能力を探究することにより、本学の設立目的及び使命を果たそうとする人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 幅広い言語学の分野から自らの専門領域を確立させるため、初年度より各々の分野で所定の科目履修をすることにより得た、言語研究の現状理解と方法論
2. 解決すべき問題を研究課題という適切な形式で問う力
3. 問題解決のために最も適切なデータ収集、および分析を行い、意味のある解を見つけ出す力
4. 言語学の基礎概念と方法論を広い視野に立って身につけ、学究的な思考方法を学び、特定の専門領域を究明する力
5. 結果の意味づけができ、専門性を活かして社会に貢献する力

【博士後期課程】

本課程では、言語という人間の最も根本を成す能力を深くかつ広く探究することにより、本学の設立目的及び使命を果たそうとする人材の養成を目的として、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 博士前期課程で身につけた専門領域での方法論と知識をもとに、オリジナリティのある研究を行い論文にまとめる力
2. 独力で高度の研究を遂行することができる学究的能力
3. 言語学および関連諸科学に関する高度に専門的な理論および方法論に熟達した自立した研究者として、国際的なレベルで認められるような学術論文を完成させる力

3. 各専攻のカリキュラム・ポリシー

言語学専攻

【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、言語を学術的に深く考察するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 専門の如何にかかわらず言語に関する基礎的な知識を修得する。そのために各コースにおいては以下の科目を必修科目と指定しており、できる限り1年目で履修させる。
 - 1) 言語学一般：音声学・音韻論基礎、統辞論基礎
 - 2) 言語聴覚研究：言語聴覚障害学特論、言語聴覚障害研究法B（実験計画法）、言語聴覚障害研究法D（文献講読）

- 3) 英語教授法: Introduction to TEFL in Japan, Second Language Acquisition, Introduction to Linguistics
 - 4) 日本語教育学: 日本語教育文法 I、第二言語習得 I、言語・文化・社会、日本語教授法概論
2. 英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、ポルトガル語、日本語の 7 言語の音声、音韻、統辞法、意味、文体、歴史等に関する科目を設ける。
 3. 上記の必修科目および他選択科目を履修することにより、各コースにおいて専門的なテーマを追求するために必須となる理論的知識、理論を応用する能力、問題解決能力、批判的思考能力、適切なデータを収集分析解釈する能力、個々のデータから一般化し理論を構築する能力を修得させる。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、言語を学術的に深く考察するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 音声学・音韻論を含む理論言語学、言語聴覚障害学、応用言語学のうちから特定のテーマを選び、それについて特定の教授の個別面談に基づいた論文指導を受けさせる。
2. 各自の専門分野の研究を深化させると同時に、関連分野の知見も取り入れ、専門的教養・学識を高めて独創的な研究を行わせる。
3. 入学後 2 年次に資格試験を受け合格し、さらに 2 編の論文を査読付きの学術雑誌に掲載することを必須とする。
4. 主として指導教員から研究指導を受け、必要とされた言語学専攻で開設されている科目を履修させる。

1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限、その他）
総単位数	30		
・選択必修科目	8		選択必修科目について、重複履修した場合、担当教員が認めれば選択科目の単位として認められる ※履修登録前に前回履修した年度と授業内容が異なっていることを確認すること
└統辞論基礎	4		
└音声学・音韻論基礎	4		
・選択科目	22		
└意味論基礎			選択科目だが、理論言語学を専攻する者は必ず履修すること
└自専攻自コース科目			
└自専攻他コース科目			
└委託聴講科目			4単位まで修了に必要な単位として認められる。 ※ただし、国連大学委託聴講科目は認められない。
研究指導(必修)		2	単位なし、2年次以降に毎学期自動的にLoyolaに登録される 2科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず自身でLoyolaにおいて修士論文を登録すること) ※9月修了希望者は学事センター（教務）窓口で登録する。

【修士論文スケジュール】

「言語学専攻ハンドブック」を必ず確認すること。

【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 研究の内容が言語研究に寄与し、独創性を有すること。
- 2) 研究テーマが十分に練り込まれた明確なものであること。
- 3) 先行研究を踏まえ、十分な論証がなされていること。
- 4) 論文の構成が組織立っており、論理が明晰で、論旨が一貫していること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
<一般言語学>			
統辞論基礎		4	
音声学・音韻論基礎		4	
意味論基礎			4
理論言語学A			4
理論言語学B			4
理論言語学C			4
実験音声学特講・演習Ⅰ-A			2
実験音声学特講・演習Ⅰ-B			2
実験音声学特講・演習Ⅱ-A			2
実験音声学特講・演習Ⅱ-B			2
文法理論			4
日本語言語学A（現代日本語構造論）			4
言語学特殊講義A（GB概説）			4
言語学特殊講義B-1（音韻論と言語障害）			2
言語学特殊講義B-2（音韻論と言語障害）			2
言語学特殊講義C（言語の構成原理再考）			4
現代言語学諸問題A（音韻論）			4
現代言語学諸問題B（文法理論）			4
現代言語学諸問題C（日本語言語学）			4
現代言語学諸問題D（言語類型論）			4
理論言語学演習			4
Psycholinguistics ※注1			2
Corpus Linguistics ※注1			2
Sociolinguistics ※注1			2
<応用言語学>			
実験統計法1			2
実験統計法2			2
言語テスト1			2
言語テスト2			2
フランス語教授法1			2
フランス語教授法2			2
Second Language Acquisition (English) ※注1			4
Focus on Form: Theory, Research, and Practice ※注1			4
Bilingual Education ※注1			2
Affective Factors in TESOL ※注1			2
Postmodern Approaches to SLA ※注1			2
Qualitative Research Methods ※注1			2
Language and Power ※注1			2
World Englishes ※注1			2
Thesis Writing ※注1			2
Classroom Discourse ※注1			2
Intercultural Interaction ※注1			2
Analyzing Spoken Data ※注1			2

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
<個別外国語研究>			
ドイツ語意味論1			2
ドイツ語意味論2			2
ドイツ語統語論1			2
ドイツ語統語論2			2
ドイツ語文体論1			2
ドイツ語文体論2			2
ドイツ語教育1			2
ドイツ語教育2			2
ドイツ語音声学・音韻論1			2
ドイツ語音声学・音韻論2			2
フランス語文法論1			2
フランス語文法論2			2
フランス語文体論1			2
フランス語文体論2			2
フランス語音声学1			2
フランス語音声学2			2
フランス語特殊研究1			2
フランス語特殊研究2			2
イスパニア語研究1			2
イスパニア語研究2			2
イスパニア語教授法1			2
イスパニア語教授法2			2
イスパニア語圏の言語と社会1			2
イスパニア語圏の言語と社会2			2
イスパニア語史1			2
イスパニア語史2			2
イスパニア語計算言語学1			2
イスパニア語計算言語学2			2
ロシア語翻訳論1			2
ロシア語翻訳論2			2
ロシア語文体論1			2
ロシア語文体論2			2
ロシア語統語論1			2
ロシア語統語論2			2
ロシア語応用言語学1			2
ロシア語応用言語学2			2
ロシア語文法論1			2
ロシア語文法論2			2
日葡文法対照研究1			2
日葡文法対照研究2			2
ポルトガル語文法論1			2
ポルトガル語文法論2			2
ポルトガル語翻訳論1			2
ポルトガル語翻訳論2			2

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
ポルトガル語史1			2
ポルトガル語史2			2
ブラジル文学論1			2
ブラジル文学論2			2

※注1：英語教授法コース（TESOL）開講科目。

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
＜個別言語学特殊講義＞			
音韻論特講1			2
音韻論特講2			2
文法理論演習			4

3. 履修上の注意

- 1) 選択必修の2科目を含め、30単位以上を履修すること。選択必修科目（「統辞論基礎」「音声学・音韻論基礎」）は、修了要件上の必修科目であり、入学1年次に履修することが望ましい。また、「意味論基礎」は選択科目であるが、理論言語学を専攻する者は必ず履修すること。
- 2) 1年次終了までに指導教員を決め、履修計画および修士論文の作成に対する指導を受けること。
- 3) 「研究指導」を2年次以降に毎学期受けること。なお、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
- 4) 2年次春学期に「修士論文計画案」を提出し、論文審査委員（主査1名、副査2名以上）による面接を受けること。
その結果を受けて、論文の作成にかかり、所定の期限に提出後、学位論文審査を受けること。（提出および審査については追って通知する。）
- 5) 「分野横断研究法：原理と技法」
（神学研究科神学専攻開講 2026年度秋学期 金曜日5時限 2単位科目）について
分野横断型の科目として、2022年度から新たに開設された。本専攻では修了に必要な単位として算入することはできないが、履修することは可能である。
定員30名の抽選科目なので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2026年度履修要覧〔ガイド・資料編〕p.ガイド33～34を参照すること。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。
なお、評価にはP（合格）・X（不合格）を使用する。

■学部開講関連科目一覧（参考）

授業科目名	開講学科等
コーパス言語学と統計	外国語学部
日本語史1	外国語学部
日本語史2	外国語学部
言語学特殊講義1（言語獲得）	外国語学部
言語学特殊講義2（言語獲得）	外国語学部
ヨーロッパの社会と言語A	外国語学部
ヨーロッパの社会と言語B	外国語学部
フランス語圏の社会と言語	外国語学部

※科目の詳細（開講期、担当者、曜日、時限等）については、学部のLoyolaの「時間割表」および「履修要覧」で確認すること。
※上記の学部開講科目を履修する場合、指導教員及び専攻主任の承認が必要。Loyola掲示板において履修登録方法を確認すること。
なお、学部開講科目は修了要件に算入することはできない。

4. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
LNG533-61m00	福井 直樹	
	渡部 良典 WATANABE Yoshinori	
	向井 裕樹	
	原田 早苗	
	和泉 伸一 IZUMI Shinichi	
	小柳 かおる	
	西村 君代	
	坂本 光代 SAKAMOTO Mitsuyo	
	清水 崇文	
	COUCHOT Hervé	
	FAIRBROTHER Lisa	
	TUCHAIS Simon	
	LIPSKY Angela	
	原 恵子	
	高橋 亮介	
	吉畑 博代	
	加藤 孝臣	
	峯 布由紀	
	秋山 真一	
	北原 真冬	
	AROZ Aingeru	
	FURUKAWA Gavin	
	MACINTYRE Robert	
	DOÑAS Antonio	
	佐山 豪太	
	阿出川 修嘉	
	永澤 済	
MARTINEZ SIREs Paula		

開講科目一覧表[博士前期課程言語学専攻]

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
MFLG6020	春	意味論基礎	LNG511-61j00	4	加藤 孝臣		前期課程対象、注2
MFLG6040	春	統辞論基礎	LNG515-61j00	4	*石井 透		前期課程対象
MFLG6030	春	音声学・音韻論基礎	LNG501-61j00	4	北原 真冬		前期課程対象
MFLG7040	春	実験音声学特講・演習 I-A	LNG526-61j00	2	*田嶋 圭一		
MFLG7050	秋	実験音声学特講・演習 I-B	LNG527-61j00	2	*田嶋 圭一		
MFLG7060	春	実験音声学特講・演習 II-A	LNG528-61j00	2	*守本 真帆		
MFLG7070	秋	実験音声学特講・演習 II-B	LNG530-61j00	2	*守本 真帆		
MFLG7170	春	言語学特殊講義B-1(音韻論と言語障害)	LNG506-61j00	2	*都田 青子		前期課程対象
MFLG7180	秋	言語学特殊講義B-2(音韻論と言語障害)	LNG507-61j00	2	*都田 青子		前期課程対象
MFLG7120	春	日本語言語学A(現代日本語構造論)	LNG508-61j00	4	加藤 孝臣		
MFLG7230	秋	現代言語学諸問題C(日本語言語学)	LNG523-61j00	4	加藤 孝臣		
MFLG7310	秋	理論言語学B	LNG519-61j00	4	加藤 孝臣		
MFLG7210	秋	現代言語学諸問題A(音韻論)	LNG521-61m00	4	北原 真冬		
MFLG7270	春	実験統計法1/RESEARCH STATISTICS 1	LNG502-61m00	2	渡部 良典 WATANABE Yoshinori		隔年開講
MFLG7290	秋	言語テスト1/LANGUAGE TESTING 1	LNG504-61m00	2	渡部 良典 WATANABE Yoshinori		隔年開講
MFLG7440	春	ドイツ語統語論1	LGG503-61j00	2	高橋 亮介		
MFLG7491	春	ドイツ語教育1	LGG507-61g00	2	LIPSKY Angela	○	
MFLG7492	秋	ドイツ語教育2	LGG508-61g00	2	LIPSKY Angela	○	
MFLG7791	春	ポルトガル語史1	LGP501-61j00	2	*黒澤 直俊		
MFLG7792	秋	ポルトガル語史2	LGP502-61j00	2	*黒澤 直俊		
MFLG9311	春	修士論文	LNG601-61m00	0	言語学専攻各指導教員		M2以上対象、9月修了希望者対象、注1
MFLG9310	秋	修士論文	LNG601-61m00	0	言語学専攻各指導教員		M2対象
MFLG7030	春	理論言語学C	LNG512-61j00	4	*葛西 宏信		
MFLG7080	秋	文法理論	LNG529-61j00	4	*葛西 宏信		2Q集中
MFLG7420	春	ドイツ語意味論1	LGG501-61j00	2	高橋 亮介		隔年開講
MFLG7450	秋	ドイツ語統語論2	LGG504-61g00	2	高橋 亮介	○	
MFLG7520	春	フランス語文体論1	LGP505-61f00	2	COUCHOT Herve	○	隔年開講
MFLG7530	秋	フランス語文体論2	LGP506-61f00	2	COUCHOT Herve	○	隔年開講
MFLG8010	春	フランス語特殊研究1	LGF511-61j00	2	*木島 愛		隔年開講
MFLG8020	秋	フランス語特殊研究2	LGF512-61j00	2	*木島 愛		隔年開講
MFLG7860	春	イスパニア語教授法1	LGH509-61h00	2	廣康 好美	○	隔年開講
MFLG7870	秋	イスパニア語教授法2	LGH510-61h00	2	廣康 好美	○	隔年開講
MFLG8080	春	イスパニア語史1	LGH515-61h00	2	DONAS Antonio	○	隔年開講
MFLG8090	秋	イスパニア語史2	LGH516-61h00	2	DONAS Antonio	○	隔年開講
MFLG7970	春	イスパニア語圏の言語と社会1	LGH511-61h00	2	ARoz Aingeru	○	
MFLG7980	秋	イスパニア語圏の言語と社会2	LGH512-61h00	2	ARoz Aingeru	○	
MFLG7700	春	ロシア語翻訳論1	LGR505-61m00	2	LATYSHEVA Svetlana	○	隔年開講
MFLG7710	秋	ロシア語翻訳論2	LGR506-61m00	2	LATYSHEVA Svetlana	○	隔年開講
MFLG7720	春	ロシア語統語論1	LGR509-61j00	2	秋山 真一		隔年開講
MFLG7730	秋	ロシア語統語論2	LGR510-61j00	2	秋山 真一		隔年開講
MFLG8140	春	日葡文法対照研究1	LGP513-61j00	2	向井 裕樹		隔年開講
MFLG8150	秋	日葡文法対照研究2	LGP514-61j00	2	向井 裕樹		隔年開講
MFLG7800	春	ポルトガル語文法論1	LGP507-61p00	2	向井 裕樹	○	隔年開講
MFLG7810	秋	ポルトガル語文法論2	LGP508-61p00	2	向井 裕樹	○	隔年開講
MFLG8120	春	ブラジル文学論1	LGP511-61j00	2	宮入 亮		隔年開講
MFLG8130	秋	ブラジル文学論2	LGP512-61j00	2	宮入 亮		隔年開講
MFLG7140	休講	言語学特殊講義A(GB概説)	LNG525-61j00	4			旧「言語学特殊講義A(GB概論)」
MFLG7220	休講	現代言語学諸問題B(文法理論)	LNG522-61j00	4			
MFLG7280	休講	実験統計法2/RESEARCH STATISTICS 2	LNG503-61m00	2			隔年開講
MFLG7300	休講	言語テスト2	LNG505-61m00	2			隔年開講
MFLG7480	休講	ドイツ語音声学・音韻論1	LGG509-61j00	2			隔年開講
MFLG7490	休講	ドイツ語音声学・音韻論2	LGG510-61j00	2			隔年開講
MFLG7320	休講	フランス語教授法1	LGF501-61f00	2		○	隔年開講
MFLG7330	休講	フランス語教授法2	LGF502-61f00	2		○	隔年開講
MFLG7430	休講	ドイツ語意味論2	LGG502-61j00	2			隔年開講
MFLG7460	休講	ドイツ語文体論1	LGG505-61g00	2		○	隔年開講
MFLG7470	休講	ドイツ語文体論2	LGG506-61g00	2		○	隔年開講
MFLG7500	休講	フランス語文法論1	LGF503-61f00	2		○	隔年開講
MFLG7510	休講	フランス語文法論2	LGF504-61f00	2		○	隔年開講
MFLG7620	休講	イスパニア語研究1	LGH505-61j00	2			隔年開講
MFLG7630	休講	イスパニア語研究2	LGH506-61j00	2			隔年開講
MFLG7900	休講	音韻論特講1	LNG513-61m00	2			
MFLG7910	休講	音韻論特講2	LNG514-61m00	2			
MFLG7990	休講	理論言語学A	LNG533-61m00	4			隔年開講
MFLG8100	休講	イスパニア語計算言語学1	LGH517-61j00	2			隔年開講
MFLG8110	休講	イスパニア語計算言語学2	LGH518-61j00	2			隔年開講
MFLG7740	休講	ロシア語文体論1	LGR507-61m00	2			隔年開講、前期課程対象
MFLG7750	休講	ロシア語文体論2	LGR508-61m00	2			隔年開講、前期課程対象
MFLG7940	休講	文法理論演習	LNG524-61j00	4			
MFLG7950	休講	ロシア語応用言語学1	LGR511-61m00	2			隔年開講
MFLG7960	休講	ロシア語応用言語学2	LGR512-61j00	2			隔年開講
MFLG7780	休講	ポルトガル語翻訳論1	LGP509-61j00	2			隔年開講
MFLG7790	休講	ポルトガル語翻訳論2	LGP510-61j00	2			隔年開講
MFLG7840	休講	フランス語音声学1	LGF507-61j00	2			隔年開講
MFLG7850	休講	フランス語音声学2	LGF508-61j00	2			隔年開講
MFLG8050	休講	ロシア語文法論1	LGR513-61j00	2			隔年開講
MFLG8060	休講	ロシア語文法論2	LGR514-61j00	2			隔年開講
MFLG8070	休講	理論言語学演習	LNG535-61j00	4			隔年開講
MFLG8000	休講	言語学特殊講義C(言語の構成原理再考)	LNG534-61j00	4			隔年開講
MFLG8160	休講	現代言語学諸問題D(言語類型論)	LNG536-61m00	4			隔年開講

注1: Loyolaで登録することはできないので、登録に際しては学事センター(教務)窓口で手続きすること。

注2: 履修に際しては、「3. 履修上の注意」の1を参照すること。

1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

【2024 年次生】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限、その他）
総単位数	30		
・選択必修科目（必修）	6		
└言語聴覚障害学特論	2		
└言語聴覚障害研究法B （実験計画法）	2		
└言語聴覚障害研究法D （文献講読）	2		
・選択必修科目	2		「コミュニケーション科学研究法A」「同B」のうち、1科目は必ず履修すること
・選択科目	22		
└自専攻自コース科目			
└自専攻他コース科目			
└委託聴講科目			4単位まで修了に必要な単位として認められる。 ※ただし、国連大学委託聴講科目は認められない。
研究指導(必修)		2	単位なし、2年次以降に毎学期自動的にLoyolaに登録される 2科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること （修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず自身でLoyolaにおいて修士論文を登録すること） ※9月修了希望者は学事センター（教務）窓口で登録する。

【修士論文スケジュール】

「言語学専攻ハンドブック」を必ず確認すること。

【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準および審査項目について審査する。

- 1) 研究の内容が言語研究に寄与し、独創性を有すること。
- 2) 研究テーマが十分に練り込まれた明確なものであること。
- 3) 先行研究を踏まえ、十分な論証がなされていること。
- 4) 論文の構成が組織立っており、論理が明晰で、論旨が一貫していること。

【2025年次生】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限、その他）
総単位数	30		
・選択必修科目（必修）	6		
↳言語聴覚療法管理学	2		
↳言語聴覚障害研究法B （実験計画法）	2		
↳言語聴覚障害研究法D （文献講読）	2		
・選択必修科目	2		「コミュニケーション科学研究法A」「同B」のうち、1科目は必ず履修すること
・選択科目	22		
↳自専攻自コース科目			
↳自専攻他コース科目			
↳委託聴講科目			4単位まで修了に必要な単位として認められる。 ※ただし、国連大学委託聴講科目は認められない。
研究指導（必修）		2	単位なし、2年次以降に毎学期自動的にLoyolaに登録される 2科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること （修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず自身でLoyolaにおいて修士論文を登録すること） ※9月修了希望者は学事センター（教務）窓口で登録する。

【修士論文スケジュール】

「言語学専攻ハンドブック」を必ず確認すること。

【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準および審査項目について審査する。

- 1) 研究の内容が言語研究に寄与し、独創性を有すること。
- 2) 研究テーマが十分に練り込まれた明確なものであること。
- 3) 先行研究を踏まえ、十分な論証がなされていること。
- 4) 論文の構成が組織立っており、論理が明晰で、論旨が一貫していること。

【2026年次生】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限、その他）
総単位数	30		
・選択必修科目（必修）	6		
↳言語聴覚療法管理学	2		
↳言語聴覚障害研究法B （実験計画法）	2		
↳言語聴覚障害研究法D （文献講読）	2		
・選択必修科目	2		「コミュニケーション科学研究法A」「同B」のうち、1科目は必ず履修すること
・選択科目	22		
↳自専攻自コース科目			
↳自専攻他コース科目			
↳委託聴講科目			4単位まで修了に必要な単位として認められる。 ※ただし、国連大学委託聴講科目は認められない。
研究指導（必修）		2	単位なし、2年次以降に毎学期自動的にLoyolaに登録される 2科目以上合格すること
修士論文もしくはリサーチペーパー			必要な研究指導を受けた上、修士論文もしくはリサーチペーパーの審査および試験に合格すること （修士論文もしくはリサーチペーパーを提出する学期の履修登録期間に、必ず自身でLoyolaにおいて修士論文もしくはリサーチペーパーに登録すること） ※9月修了希望者は学事センター（教務）窓口で登録する。

【修士論文スケジュール】

「言語学専攻ハンドブック」を必ず確認すること。

【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された修士論文を次の水準および審査項目について審査する。

- 1) 研究の内容が言語研究に寄与し、独創性を有すること。
- 2) 研究テーマが十分に練り込まれた明確なものであること。
- 3) 先行研究を踏まえ、十分な論証がなされていること。
- 4) 論文の構成が組織立っており、論理が明晰で、論旨が一貫していること。

【リサーチペーパースケジュール】

「言語学専攻ハンドブック」を必ず確認すること。

【リサーチペーパー審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出されたリサーチペーパーを次の水準および審査項目について審査する。

- 1) 問題意識が明確で、言語聴覚障害の領域における学術的な側面だけでなく、実践における有用性のあるテーマを設定できること。
- 2) これまでの先行研究の成果および課題が適切に把握できていること。
- 3) 目的に合わせて、文献研究、仮説を検証するための独自のデータ収集、理論と実践のフィードバックなど適切な手法を用いることができること。明確な理論的根拠に基づいて、目的資料収集、分析の枠組みが考えられていること。

と。

- 4) 章立てなどの構成が整理され、整合性と一貫性のある論理展開がなされていること。明快な言語表現で書かれていること。目次・本文・付録（図表・資料・参考文献・引用文献等）などの体裁が整っていること。出典の記載、引用が適切になされていること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
言語聴覚障害学特論※注1	2		
言語聴覚療法管理学※注2	2		
失語・高次脳機能障害学特論A			2
失語・高次脳機能障害学特論B			2
聴覚障害学特論A			2
聴覚障害学特論B			2
聴覚障害学特論C（補聴器）			2
聴覚障害学特論D（人工内耳）			2
小児言語発達学特論			2
地域言語聴覚療法学			2
言語聴覚学特論A（成人のコミュニケーション障害）			2
言語聴覚学特論B（小児のコミュニケーション障害）			2
言語聴覚障害研究法A（心理測定法）			2
言語聴覚障害研究法B（実験計画法）	2		
言語聴覚障害研究法C（データ分析）			2
言語聴覚障害研究法D（文献講読）	2		
言語聴覚障害の評価と診断A（成人）			2
言語聴覚障害の評価と診断B（小児）			2
言語障害研究特殊講義A（機能的構音障害）			2
言語障害研究特殊講義B（器質性構音障害）			2
言語障害研究特殊講義C（呼吸発声発語の生理学）			2
言語障害研究特殊講義D（音声障害）			2
言語障害研究特殊講義E（吃音）			2
言語障害研究特殊講義F（学習障害・脳性麻痺）			2
言語障害研究特殊講義G（成人の運動性構音障害・摂食・嚥下障害）			2
臨床医学特論A（臨床神経学）			2
臨床医学特論B（精神医学・リハビリテーション医学）			2
臨床医学特論C（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、形成外科学、臨床歯科医学）			2
臨床医学特論D（神経系の基礎と病態・内科学）			2
臨床医学特論E（小児科学・小児保健・障害学）			2

※注1：2024年次生以前 必修科目

※注2：2025年次生以降 必修科目

※注3：心理学専攻開講科目。

※注4：言語学専攻開講科目。

※注5：英語教授法コース（TESOL）開講科目。

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
言語聴覚病理学特論（医学総論・解剖学・生理学・病理学）			2
高次脳機能障害学演習A			2
高次脳機能障害学演習B			2
言語発達障害学演習A			2
言語発達障害学演習B			2
聴覚障害学演習A			2
聴覚障害学演習B			2
発声発語障害学演習A			2
発声発語障害学演習B			2
コミュニケーション科学研究法A		2	
コミュニケーション科学研究法B		2	
臨床実習1			2
臨床実習2			2
評価実習			4
見学実習			2
総合臨床実習			8
実習指導			1
統辞論基礎 ※注4			4
意味論基礎 ※注4			4
音声学・音韻論基礎 ※注4			4
実験音声学特講・演習Ⅰ－A ※注4			2
実験音声学特講・演習Ⅰ－B ※注4			2
実験音声学特講・演習Ⅱ－A ※注4			2
実験音声学特講・演習Ⅱ－B ※注4			2
Psycholinguistics ※注5			2
Second Language Acquisition (English) ※注5			4
（他）心理測定学特殊研究Ⅰ ※注3			2
（他）心理測定学特殊研究Ⅱ ※注3			2
（他）認知心理学特殊研究Ⅰ ※注3			2
（他）生理心理学特殊研究Ⅰ ※注3			2
（他）Physiopsychology 2 ※注3			2
（他）発達心理学特殊研究Ⅰ ※注3			2
（他）発達心理学特殊研究Ⅱ ※注3			2

3. 履修上の注意

【2024 年次生】

必修科目の3科目と、選択必修科目のうち、どちらか1科目を含む、30単位以上を履修すること。言語聴覚士国家試験の受験資格の取得を希望する場合は、在籍期間中に、厚生労働大臣の指定する科目（平成10年8月厚生省告示227号）を履修すること。なお、言語聴覚士の国家試験受験資格を得るためには2年半の在籍が必要となる。

【2025 年次生】

必修科目の3科目と、選択必修科目のうち、どちらか1科目を含む、30単位以上を履修すること。言語聴覚士国家試験の受験資格の取得を希望する場合は、在籍期間中に、厚生労働大臣の指定する科目（令和6年5月厚生省告示134号）を履修すること。なお、言語聴覚士の国家試験受験資格を得るためには2年半の在籍が必要となる。

【2026 年次生】

必修科目の3科目と、選択必修科目のうち、どちらか1科目を含む、30単位以上を履修すること。言語聴覚士国家試験の受験資格の取得を希望する場合は、在籍期間中に、厚生労働大臣の指定する科目（令和6年5月厚生省告示134号）を履修すること。なお、言語聴覚士の国家試験受験資格を得るためには2年間の在籍が必要となる。

【共通】

- 1) 1年次終了までに指導教員を決め、履修計画及び、修士論文もしくはリサーチペーパーの作成に対する指導を受けること。
- 2) 「研究指導」を2年次以降に毎学期受けること。なお、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
- 3) 2年次春学期に「修士論文計画案」もしくは「リサーチペーパー計画案」を提出し、論文審査委員（主査1名、副査2名以上）による面接を受けること。
その結果を受けて、論文の作成にかかり、所定の期限に提出後、学位論文審査を受けること。（提出および審査について追って通知する。）
- 4) 「分野横断研究法：原理と技法」
（神学研究科神学専攻開講 2026年度秋学期 金曜日5時限 2単位科目）について
分野横断型の科目として、2022年度から新たに開設された。本専攻では修了に必要な単位として算入することはできないが、履修することは可能である。
定員30名の抽選科目なので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2026年度履修要覧〔ガイド・資料編〕p. ガイド33～34を参照すること。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。
なお、評価にはP（合格）・X（不合格）を使用する。

■学部開講関連科目一覧（参考）

授 業 科 目 名	開講学科等
言語学概論1	外国語学部
言語学概論2	外国語学部
日本語学概説1	外国語学部
日本語学概説2	外国語学部
言語聴覚障害学概論	外国語学部
言語聴覚障害学特殊講義A（失語症）	心理学科
言語聴覚障害学特殊講義B（言語発達遅滞）	心理学科
学習・言語心理学	心理学科
発達心理学	心理学科
認知心理学Ⅰ（知覚・認知心理学）	心理学科
認知心理学Ⅱ	心理学科
感情・人格心理学	心理学科
臨床心理学概論	心理学科
臨床心理学	心理学科

※科目の詳細（開講期、担当者、曜日、時限等）については、学部のLoyolaの「時間割表」および「履修要覧」で確認すること。
 ※学部開講科目を履修する場合、指導教員および専攻主任の承認が必要。Loyola掲示板において履修登録方法を確認すること。な
 お、学部開講科目は修了要件に算入することはできない。

開講科目一覧表[博士前期課程言語学専攻]
言語聴覚研究コース

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
MFLC1040	春	言語聴覚療法管理学	LGC539-61J00	2	*岩崎 淳也 *大森 智弘		2025年度以降生対象科目、旧「言語聴覚障害学特論」
MFLC6010	春	コミュニケーション科学研究法A	LGC605-61J00	2	吉畑 博代		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象
MFLC6020	春	コミュニケーション科学研究法B	LGC606-61J00	2	*川合 紀宗		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象
MFLC7010	春	失語・高次脳機能障害学特論A	LGC502-61J00	2	吉畑 博代		M1対象
MFLC7090	春	言語聴覚障害学特論C(データ分析)	LGC603-61J00	2	*伊藤 慎悟		M2対象
MFLC7170	春	高次脳機能障害学演習A	LGC514-61J00	2	吉畑 博代		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M1対象
MFLC7190	春	言語発達障害学演習A	LGC604-61J00	2	*青木 さつき		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象、集中実習を含む
MFLC7230	春	発声発語障害学演習A	LGC619-61J00	2	*関谷 麻美子		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象、集中実習を含む
MFLC7040	2Q	聴覚障害学特論B	LGC505-61J00	2	*大原 重洋		隔年開講
MFLC7120	春	言語障害研究特殊講義A(機能性構音障害)	LGC511-61J00	2	*浅野 和海		春学期集中
MFLC7141	春	言語障害研究特殊講義E(吃音)	LGC524-61J00	2	*酒井 奈緒美		春学期集中、隔年開講
MFLC7169	春	言語聴覚病理学特論(医学総論・解剖学・生理学・病理学)	LGC549-61J00	2	コーディネータ 吉畑 博代		春学期集中、輪講、隔年開講、旧「言語聴覚病理学特論(医学概論・解剖学・生理学・病理学)」
MFLC7167	春	臨床医学特論C(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学・形成外科学・臨床歯科医学)	LGC548-61J00	2	コーディネータ 吉畑 博代		春学期集中、輪講、隔年開講、旧「臨床医学特論C(耳科学・形成外科学・歯科口腔外科学)」
MFLC7165	春	臨床医学特論D(神経系の基礎と病態・内科学)	LGC535-61J00	2	コーディネータ 吉畑 博代		春学期集中、輪講、隔年開講
MFLC7168	春	臨床医学特論E(小児科学・小児保健・障害学)	LGC550-61J00	2	*栗原 亜紀 *今井 祐之		春学期集中、輪講、隔年開講、旧「臨床医学特論E(発達障害医学・脳性麻痺)」
MFLC7310	春	見学実習	LGC542-61J00	2	吉畑 博代		2025年度以降生対象科目
MFLC1020	秋	言語聴覚障害学特論B(実験計画法)	LGC507-61J00	2	吉畑 博代		M1対象
MFLC7020	秋	失語・高次脳機能障害学特論B	LGC503-61J00	2	コーディネータ 吉畑 博代		秋学期集中、輪講、M1対象
MFLC7060	秋	言語聴覚学特論A(成人のコミュニケーション障害)	LGC601-61J00	2	吉畑 博代		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象
MFLC7070	秋	言語聴覚学特論B(小児のコミュニケーション障害)	LGC602-61J00	2	*川合 紀宗		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象
MFLC7180	秋	高次脳機能障害学演習B	LGC515-61J00	2	吉畑 博代		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M1対象
MFLC7200	秋	言語発達障害学演習B	LGC516-61J00	2	*青木 さつき		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M1対象、集中実習を含む
MFLC7240	秋	発声発語障害学演習B	LGC520-61J00	2	*関谷 麻美子		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M1対象、集中実習を含む
MFLC7081	秋	言語聴覚障害学特論A(心理測定法)	LGC544-61J00	2	*伊藤 慎悟		M1対象、旧「言語聴覚障害学特論A(心理統計)」
MFLC7112	秋	言語聴覚障害の評価と診断B(小児)	LGC538-61J00	2	*小杉 裕子		秋学期集中、旧「コミュニケーション障害分析法B(治療診断学・小児)」
MFLC7111	秋	言語聴覚障害の評価と診断A(成人)	LGC537-61J00	2	吉畑 博代		旧「コミュニケーション障害分析法A(治療診断学・成人)」
MFLC7330	秋	地域言語聴覚療法学	LGC540-61J00	2	*黒川 容輔 *岩崎 淳也		秋学期集中、輪講
MFLC7052	秋	小児言語発達学特論	LGC529-61J00	2	*大伴 潔		隔年開講
MFLC7041	秋	聴覚障害学特論C(補聴器)	LGC523-61J00	2	*佐藤 正幸		隔年開講
MFLC7130	秋	言語障害研究特殊講義B(器質性構音障害)	LGC512-61J00	2	*武井 良子		秋学期集中、M1対象
MFLC7270	秋	臨床実習1	LGC607-61J00	2	吉畑 博代		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象、2024年次生以前対象
MFLC7280	秋	臨床実習2	LGC608-61J00	2	吉畑 博代		言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M2対象、2024年次生以前対象
MFLC7290	秋	実習指導	LGC609-61J00	1	吉畑 博代		2025年度以降生対象科目
MFLC7300	秋	評価実習	LGC543-61J00	4	吉畑 博代		2025年度以降生対象科目
MFLC7320	秋	総合臨床実習	LGC610-61J00	8	吉畑 博代		2025年度以降生対象科目
MFLG9311	春	修士論文	LNG601-61m00	0	吉畑 博代		M2以上対象、9月修了希望者対象、注1
MFLG9310	秋	修士論文	LNG601-61m00	0	吉畑 博代		M2対象
MFLC7210	休講	聴覚障害学演習A	LGC517-61J00	2			言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M1対象、集中実習を含む
MFLC7220	休講	聴覚障害学演習B	LGC518-61J00	2			言語聴覚研究コースの学生のみ履修可、M1対象、集中実習を含む
MFLC7051	休講	聴覚障害学特論D(人工内耳)	LGC528-61J00	2			秋学期集中、隔年開講
MFLC7143	休講	言語障害研究特殊講義F(学習障害・脳性麻痺)	LGC541-61J00	2			輪講、春学期集中、隔年開講、旧「言語障害研究特殊講義F(学習障害)」
MFLC7132	休講	言語障害研究特殊講義D(音声障害)	LGC531-61J00	2			春学期集中、隔年開講
MFLC7150	休講	言語障害研究特殊講義G(成人の運動性構音障害・摂食・嚥下障害)	LGC513-61J00	2			隔年開講
MFLC7154	休講	臨床医学特論A(臨床神経学)	LGC546-61J00	2			春学期集中、隔年開講、旧「臨床医学特論A(神経内科学)」
MFLC7155	休講	臨床医学特論B(精神医学・リハビリテーション医学)	LGC547-61J00	2			春学期集中、輪講、隔年開講、旧「臨床医学特論B(精神医学・リハビリテーション医学・コミュニケーション障害と心理臨床)」
MFLC7030	休講	聴覚障害学特論A	LGC504-61J00	2			隔年開講
MFLC7144	休講	言語障害研究特殊講義C(呼吸発声発語の生理学)	LGC545-61J00	2			春学期集中、隔年開講、旧「言語障害研究特殊講義C(発声発語の生理学)」
MFLC1030	休講	言語聴覚障害学特論D(文献講義)	LGC508-61J00	2			隔年開講
MFLG9320	休講	リサーチペーパー	LNG602-61m00	0	吉畑 博代		2026年度生M2対象
MFLG9321	休講	リサーチペーパー	LNG602-61m00	0	吉畑 博代		2026年度生M2対象

注1:Loyolaで登録することはできないので、登録に際しては学事センター(教務)窓口で手続きすること。

※備考欄で特に記載がない場合は前期課程の学生を対象。

※修士論文については履修要覧(ガイド・資料編)p.ガイド56~59を参照。

※リサーチペーパーについては履修要覧(ガイド・資料編)p.ガイド59【修士論文に代わる特定の課題に関する研究成果について】を参照。

※研究指導一覧表についてはp.言語7を参照。

言語学専攻 博士前期課程 英語教授法コース (TESOL)

1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件/Requirements for Courses, Credits, Number of courses

要件項目名 Core curriculum	必要単位数 Credits	必要科目数 Number of courses	備考 (上限、その他) Notes
総単位数/Total credits	30		
・選択必修科目 (必修) /Compulsory elective courses			
↳Introduction to Linguistics	2		
↳Introduction to TEFL in Japan	2		
↳Second Language Acquisition (English)	4		
・選択科目 /Elective courses	22		
↳自専攻自コース科目			
↳Core Courses	4		
↳Integrative Seminar in TESOL 1 (Core Topics)	4		
↳Integrative Seminar in TESOL 2 (Related Topics)	4		
↳Special Topics in Linguistics			
↳委託聴講科目 /Other university courses under auditing agreement			4単位まで修了に必要な単位として認められる。 ※ただし、国連大学委託聴講科目は認められない。 Up to 4 credits may be accepted for completion (Special Topics in Linguistics). However, courses offered at the United Nations University are not acceptable.
↳自専攻他コース科目			
研究指導(必修) /Thesis Guidance (Compulsory)		2	単位なし、2年次以降に毎学期自動的にLoyolaに登録される 2科目以上合格すること No credits are given in this course. The course is automatically registered every semester after second year. The students must receive passing grades at least over 2 semesters.
修士論文/Master's Thesis			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず自身でLoyolaにおいて修士論文を登録すること) The student must receive supervision in the Thesis Guidance course and pass oral and written exams of his/her Master's Thesis. The student must register this course during the registration period of the semester he/she will submit his/her thesis. ※Students who wish to complete the graduate program in september must register Master's thesis at the Academic Affairs counter of the center for Academic Affairs.

【修士論文スケジュール／Schedule for Thesis Guidance】

「言語学専攻ハンドブック」を必ず確認すること。

Be sure to check *the Handbook for the Graduate School of Languages and Linguistics*.

【修士論文審査基準／Criteria for Master's Thesis Evaluation】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 研究の内容が言語研究に寄与し、独創性を有すること。
The Master's thesis makes an original contribution to the various fields of linguistics.
- 2) 研究テーマが十分に練り込まれた明確なものであること。
The research topic is clear and narrowed down to an appropriate level of specificity.
- 3) 先行研究を踏まえ、十分な論証がなされていること。
The thesis demonstrates the author makes a clear and logical argument based on the review of literature.
- 4) 論文の構成が組織立っており、論理が明晰で、論旨が一貫していること。
The argument in the thesis is systematic, coherent, clear and consistent.

2. 授業科目の編成・単位/Course Structure and Credits

科目名 Course Title	単位数/Credits		
	必修	選必	選択
<Core Courses>			
Introduction to Linguistics		2	
Introduction to TEFL in Japan		2	
Second Language Acquisition (English)		4	
Issues in Linguistic Diversity for the L2 Classroom			2
Principles of Language Teaching and Learning			2
Reading and Writing			2
Classroom Research			2
Affective Factors in TESOL			2
Curriculum and Syllabus Design			2
Materials Development			2
Principles and Practice of CLIL			2
Thesis Writing			2
<Integrative Seminar in TESOL 1 (Core Topics)>			
Focus on Form: Theory, Research, and Practice			4
Action Research			4
Classroom Discourse			2
言語テスト 1 /Language Testing 1 ※注1			2
言語テスト 2 /Language Testing 2 ※注1			2
<Integrative Seminar in TESOL 2 (Related Topics)>			
Bilingual Education			2
Intercultural Interaction			2
Analyzing Spoken Data			2
Psycholinguistics			2
Sociolinguistics			2
Postmodern Approaches to SLA			2
Qualitative Research Methods			2
Language and Power			2
Theories of Teaching English to Young Learners			2
Practicum in Teaching English to Young Learners 1			2
Practicum in Teaching English to Young Learners 2			2
実験統計法1 /Research Statistics 1 ※注1			2
実験統計法2 /Research Statistics 2 ※注1			2
フランス語教授法1 ※注1			2
フランス語教授法2 ※注1			2

※注1：言語学専攻開講科目。

※注2：日本語教育学コース開講科目。

科目名 Course Title	単位数/Credits		
	必修	選必	選択
日本語教育文法 I ※注2			2
日本語教育文法 II ※注2			2
第二言語習得 I ※注2			2
第二言語習得 II ※注2			2
言語・文化・社会 ※注2			2
日本語教授法概論 ※注2			2
日本語教育文法演習 ※注2			2
第二言語習得演習 ※注2			2
中間言語語用論概論 ※注2			2
中間言語語用論演習 ※注2			2
談話分析 ※注2			2
日本語評価法 ※注2			2
日本語教授法（初級） ※注2			2
日本語教授法（中上級） ※注2			2
日本語音声学 ※注2			2
日本語教材・教具論 ※注2			2
日本語社会言語学 ※注2			2
研究法入門 ※注2			2
異文化コミュニケーション ※注2			2
日本語研究 I ※注2			2
日本語研究 II ※注2			2
日本語教授法演習 ※注2			2
応用心理言語学 ※注2			2
日本語教育語彙 ※注2			2
日本語習得研究 I ※注2			2
日本語習得研究 II ※注2			2
<Special Topics in Linguistics>			
World Englishes			2
Corpus Linguistics			2
音声学・音韻論基礎 ※注1			4
統辞論基礎 ※注1			4
意味論基礎 ※注1			4

3. 履修上の注意／Notes for Registration

- 1) 30 単位以上を履修すること。30 単位の中には、次の選択必修科目が含まれていなければならない。／The student must earn 30 credit hours or more, including the following courses: “Introduction to Linguistics,” “Introduction to TEFL in Japan,” and “Second Language Acquisition (English)” これら 3 科目は、修了要件上の必修科目であり、1 年次に履修することが望ましい。／These courses are compulsory for those students enrolled in the TESOL program, and should ideally be completed during the first year.
さらに Core Courses（選択必修科目を除く）から少なくとも 12 単位、Integrative Seminar in TESOL 1 (Core Topics) から少なくとも 4 単位、Integrative Seminar in TESOL 2 (Related Topics) から少なくとも 4 単位履修すること。／In addition to these courses, the student must earn a minimum of 12 credits from “Core Courses, (excluding elective compulsory courses)” and a minimum of 4 credits from “Integrative Seminar in TESOL 1 (Core Topics) and Integrative Seminar in TESOL 2 (Related Topics) .
- 2) 1 年次終了までに指導教員を決め、履修計画及び、修士論文・プロジェクトの作成に対する指導を受けること。／The student must decide on the supervisor of his/her MA thesis by the end of the first academic year, and receive instruction from the supervisor as to the overall process of conducting research studies for his/her MA thesis.
- 3) 「研究指導」を 2 年次以降に毎学期受けること。なお、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。／The student must take “Thesis Guidance” every semester after the second year. Note that the number of courses and credits needed to graduate is also stipulated. Refer to #1 above for details.
- 4) 2 年次春学期に「修士論文計画書」を提出し、論文審査委員（主査 1 名、副査 2 名以上）による面接を受けること。その結果を受けて、論文の作成にかかり、所定の期限に提出後、学位論文審査を受けること。（提出および審査については追って通知する。）／The student must submit an MA thesis proposal during the spring semester of his/her second year and sit for a proposal meeting conducted by the thesis committee (consisting of one supervisor and two readers). Provided that the proposal is accepted by the committee, the student embarks on the research for the thesis. The student is supposed to submit his/her thesis during the subscribed period and sit for an oral examination. (Details about the submission of the thesis will be announced in due time.)
- 5) 「分野横断研究法：原理と技法」（神学研究科神学専攻開講 2026 年度秋学期 金曜日 5 時限 2 単位科目）について分野横断型の科目として、2022 年度から新たに開設された。本専攻では修了に必要な単位として算入することはできないが、履修することは可能である。
定員 30 名の抽選科目なので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2026 年度履修要覧〔ガイド・資料編〕 p. ガイド 33～34 を参照すること。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。
なお、評価には P（合格）・X（不合格）を使用する。

開講科目一覧表[博士前期課程言語学専攻]
英語教授法コース(TESOL)

登録コード Registration Code	開講時期 Semester	科目名 Course Title	ナンバリング Numbering	単位数 Credits	担当教員名 Instructor's Name ※(他)：他専攻教員・非常勤教員	領域	外国語	備考Notes
MFLT6010	春	INTRODUCTION TO LINGUISTICS	LGE502-61e00	2	*狩野 晶子 KANO Akiko		○	M1対象 For M1.
MFLT6020	春	INTRODUCTION TO TEFL IN JAPAN	LGE503-61e00	2	渡部 良典 WATANABE Yoshinori		○	M1対象 For M1.
MFLT6041	春	SECOND LANGUAGE ACQUISITION (ENGLISH)	LGE510-61e00	4	和泉 伸一 IZUMI SHINICHI		○	M1対象 For M1.
MFLT7410	春	PRACTICUM IN TEACHING ENGLISH TO YOUNG LEARNERS 1	LGE528-61e00	2	*狩野 晶子 KANO Akiko		○	旧「PRACTICUM IN TEACHING ENGLISH TO CHILDREN 1」
MFLT7040	春	CLASSROOM RESEARCH	LGE507-61e00	2	渡部 良典 WATANABE Yoshinori		○	
MFLT7080	春	THESIS WRITING	LGE526-61e00	2	MACINTYRE Robert		○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7150	春	CLASSROOM DISCOURSE	LGE516-61e00	2	FURUKAWA Gavin		○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7170	春	INTERCULTURAL INTERACTION	LGE522-61e00	2	FAIRBROTHER Lisa		○	
MFLT7230	春	QUALITATIVE RESEARCH METHODS	LGE517-61e00	2	坂本 光代 SAKAMOTO Mitsuyo		○	
MFLT7250	春	MATERIALS DEVELOPMENT	LGE518-61e00	2	(他)PINNER Richard		○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7030	秋	READING AND WRITING	LGE506-61e00	2	渡部 良典 WATANABE Yoshinori		○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7130	秋	ACTION RESEARCH	LGE512-61e00	4	渡部 良典 WATANABE Yoshinori		○	
MFLT7190	秋	SOCIOLINGUISTICS	LGE501-61e00	2	FAIRBROTHER Lisa		○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7260	秋	PRINCIPLES AND PRACTICE OF CLIL	LGE519-61e00	2	(他)池田 真 IKEDA Makoto		○	
MFLT7380	秋	BILINGUAL EDUCATION	LGE514-61e00	2	坂本 光代 SAKAMOTO Mitsuyo		○	
MFLT7390	秋	PSYCHOLINGUISTICS	LGE515-61e00	2	*藤井 里美 FUJII Satomi		○	
MFLT7430	秋	THEORIES OF TEACHING ENGLISH TO YOUNG LEARNERS	LGE530-61e00	2	*狩野 晶子 KANO Akiko		○	旧「THEORIES OF TEACHING ENGLISH TO YOUNG CHILDREN」
MFLT7360	秋	FOCUS ON FORM: THEORY, RESEARCH, AND PRACTICE	LGE511-61e00	4	和泉 伸一 IZUMI SHINICHI		○	旧「APPLIED LINGUISTICS (FOCUS ON FORM)」
MFLT7400	秋	POSTMODERN APPROACHES TO SLA	LGE603-61e00	2	坂本 光代 SAKAMOTO Mitsuyo		○	旧「SOCIOCULTURAL THEORY & SLA」
MFLT7440	秋	ISSUES IN LINGUISTIC DIVERSITY FOR THE L2 CLASSROOM	LGE531-61e00	2	FURUKAWA Gavin		○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLG9311	春	修士論文 (MASTER'S THESIS)	LNG601-61m00	0	言語学専攻各指導教員			M2以上対象、9月修了希望者対象、 For M2 and above. For Students who wish to complete the graduate program in September. 注1
MFLG9310	秋	修士論文 (MASTER'S THESIS)	LNG601-61m00	0	言語学専攻各指導教員			M2対象 For M2 and above
MFLT7050	休講	AFFECTIVE FACTORS IN TESOL	LGE508-61e00	2			○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7450	休講	PRINCIPLES OF LANGUAGE TEACHING AND LEARNING	LGE532-61e00	2			○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7370	休講	CORPUS LINGUISTICS	LGE527-61e00	2			○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7240	休講	LANGUAGE AND POWER	LGE602-61e00	2			○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7070	休講	CURRICULUM AND SYLLABUS DESIGN	LGE509-61e00	2			○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7120	休講	ANALYZING SPOKEN DATA	LGE520-61e00	2			○	隔年開講 Offered in alternate years
MFLT7420	休講	PRACTICUM IN TEACHING ENGLISH TO YOUNG LEARNERS 2	LGE529-61e00	2			○	旧「PRACTICUM IN TEACHING ENGLISH TO CHILDREN 2」
MFLT7270	休講	WORLD ENGLISHES	LGE521-61e00	2			○	隔年開講 Offered in alternate years

注1:Loyolaで登録することはできないので、登録に際しては学事センター(教務)窓口で手続きすること。
※修士論文については履修要覧[ガイド・資料編]p.ガイド56~59を参照。
※研究指導一覧表についてはp.言語 7を参照。

言語学専攻 博士前期課程 日本語教育学コース

1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限、その他）
総単位数	30		
・選択必修科目（必修）	8		
└日本語教育文法 I	2		
└第二言語習得 I	2		
└言語・文化・社会	2		
└日本語教授法概論	2		
・(B)選択必修科目群	16		(B) 選択必修科目群から16単位を超えて履修をした場合、その単位は選択科目として取り扱う
・選択科目	6		
└自専攻自コース科目			
└自専攻他コース科目			
└委託聴講科目			4単位まで修了に必要な単位として認められる。 ※ただし、国連大学委託聴講科目は認められない。
研究指導(必修)		2	単位なし、2年次以降に毎学期自動的にLoyolaに登録される 2科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず自身でLoyolaにおいて修士論文を登録すること) ※9月修了希望者は学事センター（教務）窓口で登録する。

【修士論文スケジュール】

「言語学専攻ハンドブック」を必ず確認すること。

【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 研究の内容が言語研究に寄与し、独創性を有すること。
- 2) 研究テーマが十分に練り込まれた明確なものであること。
- 3) 先行研究を踏まえ、十分な論証がなされていること。
- 4) 論文の構成が組織立っており、論理が明晰で、論旨が一貫していること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
< (A) 必修科目群 >			
日本語教育文法 I		2	
第二言語習得 I		2	
言語・文化・社会		2	
日本語教授法概論		2	
< (B) 選択必修科目群 >			
日本語教育文法 II			2
第二言語習得 II			2
日本語教育文法演習			2
第二言語習得演習			2
中間言語語用論概論			2
中間言語語用論演習			2
談話分析			2
日本語評価法			2
日本語教授法 (初級)			2
日本語教授法 (中上級)			2
日本語音声学			2
日本語教材・教具論			2
日本語社会言語学			2
研究法入門			2
異文化コミュニケーション			2
日本語研究 I			2
日本語研究 II			2
日本語教授法演習			2
応用心理言語学			2
日本語教育語彙			2
日本語習得研究 I			2
日本語習得研究 II			2
< (C) 選択科目群 >			
Introduction to Linguistics ※注2			2
Introduction to TEFL in Japan ※注2			2
Second Language Acquisition (English) ※注2			4
Issues in Linguistic Diversity for the L2 Classroom ※注2			2
Principles of Language Teaching and Learning ※注2			2
Reading and Writing ※注2			2

※注1：言語学専攻開講科目。

※注2：英語教授法コース (TESOL) 開講科目。

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
Classroom Research ※注2			2
Affective Factors in TESOL ※注2			2
Curriculum and Syllabus Design ※注2			2
Materials Development ※注2			2
Principles and Practice of CLIL ※注2			2
Thesis Writing ※注2			2
Focus on Form: Theory, Research, and Practice ※注2			4
Action Research ※注2			4
Classroom Discourse ※注2			2
Bilingual Education ※注2			2
Intercultural Interaction ※注2			2
Analyzing Spoken Data ※注2			2
Psycholinguistics ※注2			2
Sociolinguistics ※注2			2
Postmodern Approaches to SLA ※注2			2
Qualitative Research Methods ※注2			2
Language and Power ※注2			2
Theories of Teaching English to Young Learners ※注2			2
Practicum in Teaching English to Young Learners 1 ※注2			2
Practicum in Teaching English to Young Learners 2 ※注2			2
World Englishes ※注2			2
Corpus Linguistics ※注2			2
統辞論基礎 ※注1			4
意味論基礎 ※注1			4
音声学・音韻論基礎 ※注1			4
実験統計法1 ※注1			2
実験統計法2 ※注1			2
言語テスト1 ※注1			2
言語テスト2 ※注1			2

3. 履修上の注意

- 1) 30 単位以上を履修すること。
 なお、上記 30 単位の中には、(A)履修群の 8 単位、(B)履修群の 16 単位以上が含まれていなければならない。
 また、学部での日本語教育の知識が不十分な学生については、必要に応じて学部の日本語教育関連コースの科目の履修を義務付ける場合がある。
- 2) 1 年次終了までに指導教員を決め、履修計画及び、修士論文の作成に対する指導を受けること。
- 3) 「研究指導」を 2 年次以降に毎学期受けること。なお、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
- 4) 2 年次春学期に「修士論文計画書」を提出し、論文審査委員（主査 1 名、副査 2 名以上）による面接を受けること。
 その結果を受けて、論文の作成にかかり、所定の期限に提出後、学位論文審査を受けること。（提出および審査については追って通知する。）
- 5) 「分野横断研究法：原理と技法」
 （神学研究科神学専攻開講 2026 年度秋学期 金曜日 5 時限 2 単位科目）について
 分野横断型の科目として、2022 年度から新たに開設された。本専攻では修了に必要な単位として算入することはできないが、履修することは可能である。
 定員 30 名の抽選科目なので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2026 年度履修要覧〔ガイド・資料編〕p. ガイド 33～34 を参照すること。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。
 なお、評価には P（合格）・X（不合格）を使用する。

■学部開講関連科目一覧（参考）

授 業 科 目 名	開講学科等
日本語教育入門1	外国語学部
日本語教育入門2	外国語学部
日本語教育学A（文法）1	外国語学部
日本語教育学A（文法）2	外国語学部
日本語教育学B（言語習得）1	外国語学部
日本語教育学B（言語習得）2	外国語学部
日本語教育学C（社会言語学）1	外国語学部
日本語教育学C（社会言語学）2	外国語学部
日本語教授法A（初級）1	外国語学部
日本語教授法A（初級）2	外国語学部
日本語教授法B（中上級）1	外国語学部
日本語教授法B（中上級）2	外国語学部
日本語教授法C（技能別）1	外国語学部
日本語教授法C（技能別）2	外国語学部

※科目の詳細（開講期、担当者、曜日、時限等）については、学部の Loyola の「時間割表」および「履修要覧」で確認すること。

※上記の学部開講科目を履修する場合、指導教員及び専攻主任の承認が必要。Loyola 掲示板において履修登録方法を確認すること。

なお、学部開講科目は修了要件に算入することはできない。

開講科目一覧表[博士前期課程言語学専攻]
日本語教育学コース

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
MFLJ6010	春	日本語教育文法 I	LGJ512-61J00	2	峯 布由紀		
MFLJ6020	春	第二言語習得 I	LGJ501-61J00	2	小柳 かおる		
MFLJ6030	春	言語・文化・社会	LGJ503-61J00	2	清水 崇文		
MFLJ6040	春	日本語教授法概論	LGJ504-61J00	2	永澤 済		
MFLJ7030	春	日本語教育文法演習	LGJ602-61J00	2	峯 布由紀		
MFLJ7060	春	中間言語語用論概論	LGJ505-61J00	2	清水 崇文		
MFLJ7160	春	研究法入門	LGJ511-61J00	2	*島田 めぐみ		
MFLJ7180	春	日本語研究 I	LGJ605-61J00	2	永澤 済		
MFLJ7200	春	日本語教授法演習	LGJ607-61J00	2	小柳 かおる		
MFLJ7210	春	応用心理言語学	LGJ608-61J00	2	小柳 かおる		
MFLJ7100	春	日本語教授法(初級)	LGJ507-61m00	2	*ベレラ 柴田 奈津子		春学期集中
MFLJ7130	春	日本語教材・教具論	LGJ508-61J00	2	*ベレラ 柴田 奈津子		隔年開講、春学期集中
MFLJ7010	秋	日本語教育文法 II	LGJ513-61J00	2	峯 布由紀		
MFLJ7020	秋	第二言語習得 II	LGJ502-61J00	2	小柳 かおる		
MFLJ7050	秋	第二言語習得演習	LGJ603-61J00	2	小柳 かおる		
MFLJ7070	秋	中間言語語用論演習	LGJ604-61J00	2	清水 崇文		
MFLJ7080	秋	談話分析	LGJ506-61J00	2	清水 崇文		隔年開講
MFLJ7090	秋	日本語評価法	LGJ515-61J00	2	小柳 かおる		
MFLJ7120	秋	日本語音声学	LGJ514-61J00	2	*大久保 雅子		
MFLJ7140	秋	日本語社会言語学	LGJ509-61J00	2	*大場 美和子		
MFLJ7190	秋	日本語研究 II	LGJ606-61J00	2	永澤 済		
MFLJ7220	秋	日本語教育語彙	LGJ609-61J00	2	永澤 済		
MFLJ7230	秋	日本語習得研究 I	LGJ610-61J00	2	峯 布由紀		隔年開講
MFLG9311	春	修士論文	LNG601-61m00	0	言語学専攻各指導教員		M2以上対象、9月修了希望者対象、注1
MFLG9310	秋	修士論文	LNG601-61m00	0	言語学専攻各指導教員		M2対象
MFLJ7110	休講	日本語教授法(中上級)	LGJ516-61m00	2			隔年開講
MFLJ7170	休講	異文化コミュニケーション	LGJ517-61J00	2			隔年開講
MFLJ7240	休講	日本語習得研究 II	LGJ611-61J00	2			隔年開講

注1:Loyolaで登録することはできないので、登録に際しては学事センター(教務)窓口で手続きすること。

※修士論文については履修要覧[ガイド・資料編]p.ガイド56～59を参照。

※研究指導一覧表についてはp.言語 7を参照。

言語学専攻 博士後期課程

1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

【18年次生以降】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限、その他）
総単位数	6		
・必修科目			
└言語学特殊研究Ⅰ	2		
└言語学特殊研究Ⅱ	2		
└言語学特殊研究Ⅲ	2		
・選択科目			
研究指導（必修）		6	単位なし、在学中每学期自動的にLoyolaに登録される6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格すること

【博士論文スケジュール】

「言語学専攻ハンドブック」を必ず確認すること。

【博士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

- 1) 研究の内容が言語研究に寄与し、独創性を有すること。
- 2) 研究テーマが十分に練り込まれた明確なものであること。
- 3) 国内外の先行研究を踏まえ、十分な論証がなされていること。
- 4) 論文の構成が組織立っており、論理が明晰で、論旨が一貫していること。
- 5) 自立した研究者として研究活動を遂行するに足る能力と学識が示されたものであること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
言語学特殊研究Ⅰ	2		
言語学特殊研究Ⅱ	2		
言語学特殊研究Ⅲ	2		

3. 履修上の注意

- 1) 18年次生以降：必修科目「言語学特殊研究Ⅰ」「言語学特殊研究Ⅱ」「言語学特殊研究Ⅲ」の3科目、計6単位をD1～D3の春学期に履修すること。
- 2) 1年次に指導教員を決め、研究上の指導を受けること。
2年次年度末（3月末日）までに博士論文資格試験を受験すること。詳細は「言語学専攻ハンドブック」を参照すること。
- 3) 「研究指導」について

「研究指導」を在学中毎学期受けること。「研究指導」は在学中毎学期自動的に Loyola に登録される。

6 科目以上合格することなお、2017 年次生以降については、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。

- 4) 博士論文提出前に、合計 2 編以上の論文をしかるべき学術雑誌（査読付き）に発表すること。そのうち少なくとも 1 編は単著であること。
- 5) 博士論文（課程博士）の作成、提出について
 - (a) 指導教員の指導の下で作成準備にかかり、適当な時期に、論文審査委員会（主査 1 名、副査 2 名以上）を構成する。博士論文提出の詳細なスケジュールについて「言語学専攻ハンドブック」を必ず参照すること。
 - (b) 在学中に論文を提出し、審査を受け、最終試験（公開試問）を受ける。
「論文博士」の提出手続きについては学事センター（学籍・証明書）窓口にお問い合わせすること。
- 6) 本修了要件（上記 1）～ 5)) は、2003 年度入学者から施行する。
- 7) 課程博士の取得を希望する者は「言語学専攻ハンドブック」を熟読した上で、専攻事務室（i-lingd@sophia.ac.jp）に連絡すること。

言語聴覚障害学を専攻する者は以下を参照すること。

- 1) 必修科目「言語学特殊研究Ⅰ」「言語学特殊研究Ⅱ」「言語学特殊研究Ⅲ」の 3 科目、計 6 単位を D1～D3 の春学期に履修すること。
- 2) 1 年次に指導教員を決め、研究上の指導を受けること。
2 年次年度末（3 月末日）までに博士論文資格試験を受験すること。詳細は「言語学専攻ハンドブック」を参照すること。
- 3) 「研究指導」を在学中毎学期受けること。「研究指導」は在学中毎学期自動的に Loyola に登録される。なお、2017 年次生以降の学生については、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
- 4) 博士論文の提出前に、合計 2 編以上の論文（査読付き。そのうち 1 編以上は英語で書かれたもの）をしかるべき学術雑誌に発表すること。また、2 編ともに筆頭著者であること。
- 5) 博士論文（課程博士）の作成・提出について
 - (a) 指導教員の指導の下で作成準備にかかり、適当な時期に、論文審査委員会（主査 1 名、副査 2 名以上）を構成する。博士論文提出の詳細なスケジュールについて「言語学専攻ハンドブック」を必ず参照すること。
 - (b) 在学中に論文を提出し、2 回の論文審査に合格した後、最終試験（公開試問）を受ける。
「論文博士」の提出手続きについては学事センター（学籍・証明書）窓口にお問い合わせすること。
- 6) 課程博士の取得を希望する者は「言語学専攻ハンドブック」を熟読した上で、専攻事務室（i-lingd@sophia.ac.jp）に連絡すること。

4. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
LNG804-61m00	福井 直樹	
	渡部 良典	
	向井 裕樹	
	原田 早苗	
	和泉 伸一	
	小柳 かおる	
	西村 君代	
	坂本 光代	
	清水 崇文	
	MARTINEZ SIREs Paula	
	COUCHOT Hervé	
	FAIRBROTHER Lisa	
	TUCHAIS Simon	
	LIPSKY Angela	
	高橋 亮介	
	吉畑 博代	
	加藤 孝臣	
	峯 布由紀	
	秋山 真一	
	北原 真冬	
	AROZ Aingeru	
	FURUKAWA Gavin	
	MACINTYRE Robert	
	DOÑAS Antonio	
	佐山 豪太	
	阿出川 修嘉	
	永澤 済	

開講科目一覧表[博士後期課程言語学専攻]

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
DFLG1000	春	言語学特殊研究 I	LNG801-61m00	2	言語学専攻指導教員		D1対象
DFLG2000	春	言語学特殊研究 II	LNG802-61m00	2	言語学専攻指導教員		D2対象
DFLG3000	春	言語学特殊研究 III	LNG803-61m00	2	言語学専攻指導教員		D3対象